

筆算力トレーニング結果 記録用紙				4年 組 名前 ( )
トレーニング回数	ひき算	かけ算	わり算	一言感想
1回目(11 / )	分 秒( 問正解)	分 秒( 問正解)	分 秒( 問正解)	
2回目(11 / )	分 秒( 問正解)	分 秒( 問正解)	分 秒( 問正解)	
3回目(11 / )	分 秒( 問正解)	分 秒( 問正解)	分 秒( 問正解)	
4回目(11 / )	分 秒( 問正解)	分 秒( 問正解)	分 秒( 問正解)	
5回目(11 / )	分 秒( 問正解)	分 秒( 問正解)	分 秒( 問正解)	
6回目(11 / )	分 秒( 問正解)	分 秒( 問正解)	分 秒( 問正解)	
7回目( / )	分 秒( 問正解)	分 秒( 問正解)	分 秒( 問正解)	
8回目( / )	分 秒( 問正解)	分 秒( 問正解)	分 秒( 問正解)	
9回目( / )	分 秒( 問正解)	分 秒( 問正解)	分 秒( 問正解)	
10回目( / )	分 秒( 問正解)	分 秒( 問正解)	分 秒( 問正解)	
11回目( / )	分 秒( 問正解)	分 秒( 問正解)	分 秒( 問正解)	

トレーニングを終えての感想

(指導例)

## 算数科学習指導案

平成17年11月1日(火)第2校時

指導者 小林 東洋

### 授業の視点

商が2位数になるわり算の筆算方法を身につける学習において、商が1位数になる場合の計算と比較させたり、筆算支援の教材を用いたりしたことは、商を立てる位を正しく判断し、処理する能力を育む手段として有効であったか。

### 単元名 わり算の筆算(2)

#### 単元の考察

##### (1) 児童の実態

本学級の児童数は男子14名、女子15名、合計29名である。児童はこれまでの学習で、たし算、ひき算、かけ算、わり算の演算を学習してきている。扱う数はいずれも整数である。わり算の学習は、3年の時にかかけ算九九を一度用いて解く内容を学習し、4年の一学期の学習ではわり算の筆算を学んできている。

次に、学級の児童を対象に本単元に関わるアンケートをとり、その回答と日頃の学習の様子から、本単元に関わる児童の実態を観点別に次のように捉えた。アンケートの設問については次の通りである。

##### (アンケート)

あなたはふだんの算数の勉強が好きですか？

好き あまり好きではない 内容によってちがう 好きな内容は( )

1. わり算の学習は他のたし算、ひき算、かけ算と比べてむずかしいと思いますか？

はい 2へ進む ・ いいえ 3へ進む ・ どちらともいえない 4へ進む

2. 1.の質問で「はい」と答えた子に質問です。わり算のどんなところがむずかしいと思いますか？ア～エの中から選んで、とついたりカッコの中に書いたりしてください。

ア ひき算やかけ算もしなくちゃいけないから。

イ 商(わり算の答え)を立てるのがむずかしいから。

ウ 筆算のやり方がむずかしいから。

エ その他( )

3. 1.の質問で「いいえ」と答えた子に質問です。わり算よりむずかしいのは、何ですか？また、それはどうしてですか？

4. 1.の質問で「どちらともいえない」と答えた子に質問です。どちらともいえないのは、どんなことからですか？りゆうを教えてください。

5. これからわり算の学習が始まりますが、心配などはありますか？もしあったら、教え方の助けにしたいので、それを教えてください。

ア 答えが自分でできちんと出せるか心配。

イ わからないところがあって、みんなについていけないか心配。

ウ やり方をきちんと覚えられるか心配。

エ その他( )

以上

### 関心・意欲・態度

4年の一学期に学習したわり算の筆算や、わり算の宿題への取り組みの様子などを見ると、子ども達のわり算に取り組む態度は、算数の他の単元と差を感じない。また、前述のアンケートの結果をみると、わり算を特に難しいと感じている児童は5名と少ないものの、わり算の学習に不安を感じている児童は19名で、クラス全体の約2/3にあたる。その理由の多くは、「やり方をきちんと覚えられるか」や「答えが自分できちんと出せるか」であった（19人中16人が該当）。一方、ひき算の暗算やかけ算を難しいと感じている児童は、9名いる。主な理由は、念頭操作が難しいことやかけ算九九がスムーズに唱えられないことであった。

これらのことから児童は、これまでのわり算の学習では難しい学習という印象を抱くことは少なく、学習への取り組み方もその他の学習内容とあまり差がない。しかし、かけ算やひき算、正しい手順の理解など、理由はそれぞれ異なるものの、わり算に対する不安を感じながら学習に取り組んでいる児童が多いと考えられる。

### 数学的な考え方

わる数が1位数のわり算では、商を立てる場面でかけ算九九を唱えることに多く時間を費やしてしまう児童が、5人ほどいる。また、わり算の商の立て方を具体物を使って説明できる児童は半数程度である。一方、商の立て方をかけ算九九を用いて説明できる児童は、クラス全体の2/3程度であった。これらのことから、わり算の筆算の処理のしかたを理解している児童は多いものの、その意味について図や言葉を用いて説明したり、見通しを持ったりする見方や考え方を育てていく必要があると考える。

また、クラスの児童全員を対象に「 $23 \times 5$ 」と「 $6 \times 48$ 」の積を見積もる問題を出題したところ、7人の児童は、かける数やかけられる数が2けたになると、答えを推察するのが難しいことが分かった。これは、数字をおよその数に置きかえるという見方が、児童に十分身に付いていないためと考える。

### 表現・処理

わる数が1位数のわり算の筆算では、全員の児童が手順通り処理できている。しかし、筆算の過程で空位（0が立つ位）ができると、次にどう処理したらよいか迷ってしまう児童がでてくる。また、例えばかけ算九九の7の段を使って商を立てる場面で、 $7 \times 1$ から順番に唱えるなど、かけ算九九をうまく使いこなせていないとみられる児童が5人ほどいる。ひき算をする際、指を使って数える児童も同程度数いる。しかしどちらの児童も、繰り返し問題を解く経験を重ねることにより、徐々に改善されてきている。これらのことから児童は、わり算の筆算については、基本的な手順に沿っておおむね処理できているものの、計算経験が少ないなどの理由から商の立て方を迷ったり、計算の正確性に欠けてしまったりする面があるのではないかと考える。

### 知識・理解

わり算の筆算の手順である「商を立てる、かける、引く、おろす」については、ほとんどの児童がおおむね理解している。また、ほとんどの児童はかけ算九九も間違えずに唱えられ、2位数や3位数同士のひき算の筆算のやり方も理解できている。一方で、前述した「 $23 \times 5$ 」と「 $6 \times 48$ 」の積を見積もる問題の答えの解説をしたところ、23や48をおよその数に直して考える、という見方が理解できた児童は3/4程度であった。

これらのことから、児童は本単元を学習する上で必要な基本的事項はおおむね理解している。しかし、およその数に直して数を見積もることについての理解は、十分とはいえないと考える。

## (2) 教材観

小学校学習指導要領では、4年生の算数科において、「整数の除法についての理解を深め、

その計算が確実にできるようにし、適切に用いる能力を伸ばす。」が目標のひとつとして示されている。児童はこれまで、 $(2 \text{ 位数}) \div (1 \text{ 位数})$ の計算を行ってきた。この内容を踏まえ4年生では、筆算を用いた $(2 \text{ 位数または} 3 \text{ 位数}) \div (2 \text{ 位数})$ の計算などを学習する。児童にとって、わり算は四則演算の中でも最後に学ぶ演算であるため、学習経験が少ない。またわり算は、かけ算とひき算を繰り返し使って計算を進めるため、他の四則演算よりも複雑である。児童は「できる学習」や「わかる学習」を「好きな学習」と感じ、意欲的に学習に取り組むことを考えると、4年生でわり算の正しい処理技能を身につけることは、今後の算数科の学習を意欲的に取り組む児童を育む上で重要である。

わり算の計算では、筆算の手順と考え方を理解し、商を的確に立て、減法や乗法の計算を正しく処理する力を身につけることが必要である。しかし、計算過程にあるわり算の商を立てる活動は、わり算の筆算の中で最も難しく、修正などで手間がかかることもあるため、児童がつまづきやすいところでもある。

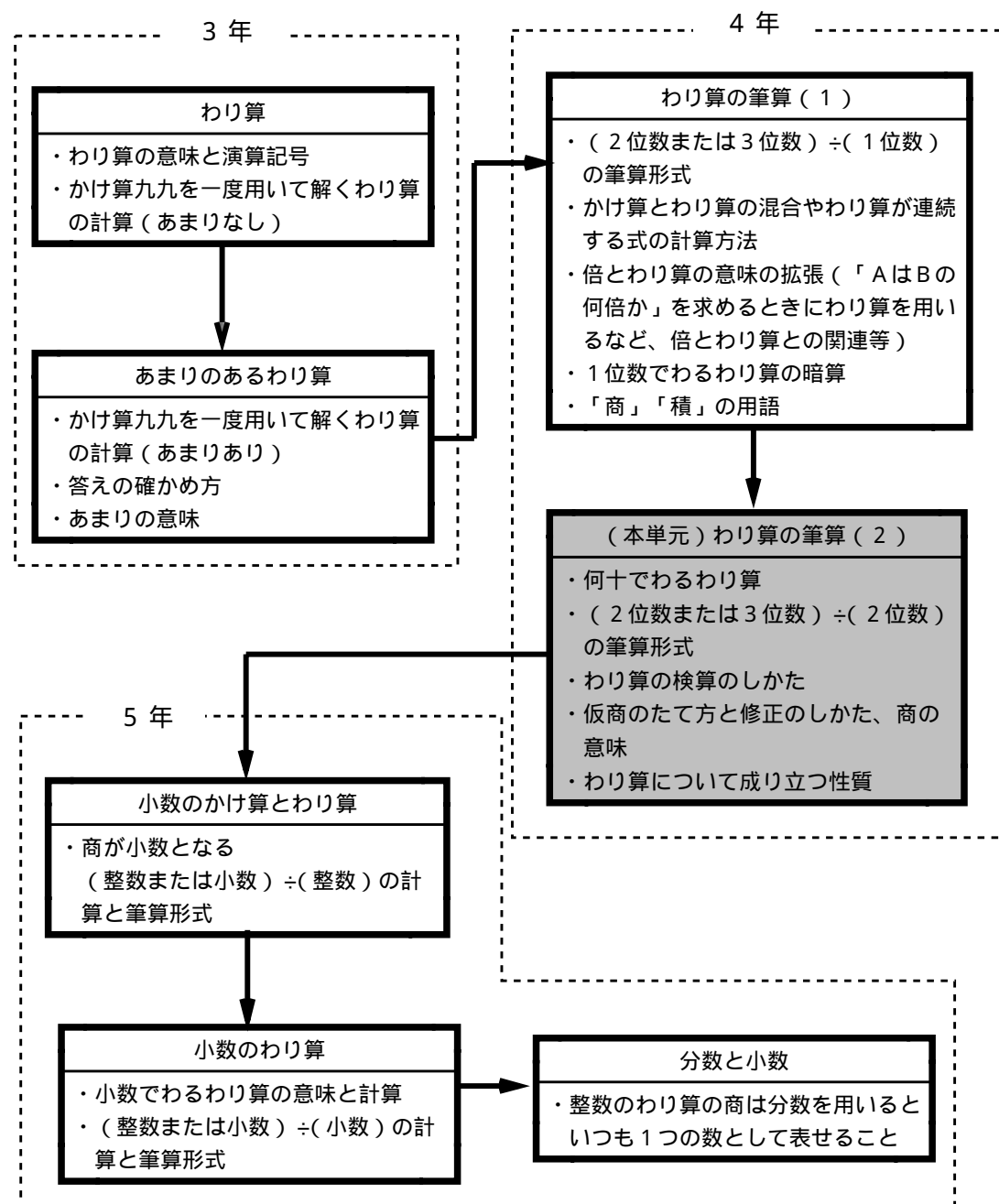
そこで本単元ではまず、 $90 \div 20$ など、 $(\text{何十}) \div (\text{何十})$ の計算の仕方について考える学習内容を取り上げ、児童に2けたの数でわるわり算の商の立て方のイメージをつかませる。次に $87 \div 21$ など、仮商の修正のないわり算を筆算で解く方法を考えさせる。児童にとって、2位数でわるわり算の筆算は初めてであるため、筆算を解く過程で処理する数の意味を考えさせながら、筆算手順を理解させていきたい。またこの学習では、わり算の検算方法も取り上げる。児童が検算方法を理解し、使いこなせるようになることで、 $(\text{商}) \times (\text{わる数})$ の積がわられる数に包含される関係であることや、その差があまりとなることなど、わる数とわられる数、商とあまりの相関関係についての理解がさらに深められるようにしたい。次に、 $86 \div 23$ や $78 \div 19$ の筆算のしかたを考えさせる。 $86 \div 23$ の筆算は、23を20にして商の見当をつけると、わる数と商の積がわられる数より大きくなってしまう(以下、このような商を過大商とする)。そのため、仮商を1つ小さい数に修正する必要がある。一方、 $78 \div 19$ の筆算は、わる数と商の積とわられる数の差がわる数より大きくなってしまう(以下、このような商を過小商とする)。つまり、仮商を1つ大きい数に修正する必要がある。このような仮商を修正する学習内容では、過大商や過小商など状況に合わせて、仮商を適切に判断し、修正する力を習得させることが重要である。また、これらの修正を繰り返し処理することで、次第に自分にあった商を立てる力が身に付いていくのだろうと考える。

次に、わられる数が3位数の筆算のしかたを考えさせる。はじめに、 $153 \div 24$ など商が1位数になる問題を提示する。この問題は商を立てる位などが既習事項と同じであるため、わられる数が3位数の筆算の導入として適当であると考え。その後、 $345 \div 21$ など商が2位数になる問題を提示する。初めて商が十の位に立つ計算になるため、それまでの筆算手順との相違点と共通点に着目させる。このことにより、わり算の見方に広がりを感じさせるとともに、扱う数が大きくなっても、基本的な手順や計算は同じであることに気づかせていきたい。

次の小単元では、まず商が同じになるわり算をの式をつくる学習に取り組ませる。それらの式を見比べさせることにより、同じ商になる式相互の関係、つまりわられる数とわる数に同じ数をかけても、同じ数でわっても商は等しいという関係に気づかせていきたい。さらに、その関係の理解に基づいて、例えば $150 \div 50$ や $1500 \div 500$ の商はわり算の性質を利用して、 $15 \div 5$ という簡便な式に直して商を求めることができることに気づかせたい。しかし、あまりの大きさを出すときに、簡便に直した式のまま出してしまう間違えも予想されるため、その点に留意した指導を心がけて、正しく処理できるようにさせたい。

以上のような指導を通じ、筆算形式による2位数あるいは3位数を2位数でわるわり算の計算のしかたについて理解し、それを適切に用いる能力やわり算に対する見方や理解が一層進むようにしたいと考え、本単元を設定した。

### (3) 教材の系統



### (4) 指導方針及び支援

- ・本校の4年生は、年間を通じ2人の指導者による少人数指導を行っている。本単元では、事前のアンケートの中のわり算の学習に対する不安への記述をもとにグループ編成を行った。同じ不安を抱える児童を同じグループにすることで、児童を見取る視点が絞れ、指導の重点が明確になると考えたからである。また、児童の不安を解決させることは、特にわり算の学習につまずきやすい児童にとって、学習に対する抵抗感を軽減する指導として大切であると考えた。
- ・筆算のしかたや意味を全体指導する場面と筆算の処理につまずいた児童への支援の場面とを計画的に設定することで、児童の実態にあわせた個別指導が授業時間の中で有効に行えるようにしたい。
- ・個別指導の際、一人一人のつまずきに、タイミングよく支援するために、コンピュータによ

る個別支援の場面を取り入れる。またこの支援により、どの児童にも筆算の処理をより多く経験させたい。

- ・わり算の学習に必要な力を高めるため、授業の初めにトレーニングとして、わり算の筆算の手順一つ一つに関わる練習問題を解かせる時間を継続して設定する。

- ・わり算の筆算のしかたを説明する際、児童にとって筆算の意味がより理解しやすいものとなるよう、扱う数の意味などを具体物と関わらせながら説明する。

- ・商が2位数になる筆算の指導では、既習事項の筆算との相違点だけでなく、共通点もとらえさせることにより、これまでと全く違う計算ではないことに気づかせるとともに、筆算の見方を広げ、桁数が増えた場合の計算など、発展的な内容についての見通しも持たせるようにする。

- ・末尾に0のある数のわり算の簡便な処理する学習場面では、児童があまりを間違ってしまうことが予想させる。そのためこの場面の指導では、具体物をもとにして答えを導き出す説明を取り入れるなどして、児童が具体的な事象を想像しながら問題を処理できるようにしたい。

#### (5) 本単元で使用する支援教材について

##### ア 教材を使用する理由

###### わり算のしかたと意味を解説する教材について

これまででもわり算の指導では、教師が筆算手順を説明する際、具体物を用いながら筆算過程の意味を同時に説明してきた。しかし、除数や被除数が大きくなると、具体物が多くなるため、説明も煩雑になりやすかった。そこで一斉指導の場面で活用できる、コンピュータによって筆算の手順に沿って具体物が動き、各位に立てた商の意味やひき算して出た数値の意味などが理解できるようにした筆算手順の解説教材を使用することにした。

###### 筆算のつまずきを支援する教材について

筆算で何度も修正をしながら商を立てる活動は、わり算の学習でとても重要であるが、難しく手間もかかる。理解が進まない児童にとっては、意欲を持ち続けられないことや1題にかかる時間が長く、商の見通しを持つ経験が十分積めないことがあった。そこで、筆算処理につまずいた児童への個別指導の場面で、2位数のわる数をおよその数に一時的に直せ、商を立てる際のヒントとなる機能と、立てた仮商が適当であるかコンピュータで計算し、確認・修正できる補助機能を備えた筆算のつまずき支援教材を活用することにした。

や の教材を使うことにより、手順や数の意味が煩雑にならず、よりわかりやすく児童に説明できる。また、仮商の見当をつける場面で、除数をおよその数に直さないと商の見当がつけられない児童や、かけ算が苦手な仮商の修正に時間がかかる児童にとって、仮商を立て、修正する時間が短くなり、筆算を繰り返し解くことで、徐々に見通しを持って商を立てる力が身に付き、筆算を自力で解く力の習得が期待できる。加えて、学習につまずいた児童に対し、個に応じて繰り返しかつ簡単に学習を支援できる環境は、筆算を苦手としている児童にも問題を解きたいという意欲を抱かせるとともに、いつでも支援してもらえるという安心感を持たせることができる。

以上のように、わり算の学習指導でコンピュータ教材を活用することで、児童の見通しを持って計算を解き進める力を育み、算数への意欲も持たせられると考えた。

##### イ 教材の基本的な考え方

小学校4年生の算数科における「わり算の筆算」の学習で、児童が興味や関心を持って学び、意欲を持って問題を解くための支援となる教材をWeb形式で作成した。筆算の手順等、基礎的な知識を理解させる内容には、Flashを用いたアニメーションを用いた。コンピュータの中で、

ものを人に配布するという具体物の流れと筆算の数字操作の流れを対比しながら疑似体験させることで、筆算による数字操作だけよりも計算で処理される数字や操作の意味が理解できるようにしたい。また、筆算の解き方でつまずいた児童への支援教材では、ExcelのVBAを活用した。(2位数または3位数)÷(2位数)の問題であれば、任意の数字を問題として入力できるようにし、筆算操作の中でも児童が特に時間がかかり、苦手としている過程にしばって支援機能を設けた。この教材は解き方につまずいたときに利用するものであり、最終的には、このつまずき支援教材を使わなくても、全員が自らの力で筆算が解けるようになることが最もよい結果である。

またこの教材には、つまずきの主な原因が自己診断でき、どのような力をつけたらよいのか児童自らが感じられるようにするため、「商を立てる力」「かけ算の力」「ひき算の力」の育成をねらった練習問題も盛り込んだ。

### 単元の目標

筆算形式による2~3位数を2位数でわるわり算の計算のしかたについて理解し、それを適切に用いる力を育てる。

(関心・意欲・態度)

- ・わる数が2位数のわり算の計算のしかたを、既習のわり算の計算のしかたをもとに進んで考えようとする。

(数学的な考え方)

- ・見積もりをもとに、仮商の立て方や修正のしかたについて考えることができる。

(表現・処理)

- ・わる数が2位数のわり算の計算を正確に筆算ですることができる。

(知識・理解)

- ・わる数が何十のわり算の計算のしかたを理解する。
- ・わる数が2位数のわり算の筆算のしかたを理解する。

### 評価規準

観 点	興味・関心・意欲	数学的な考え方	表現・処理	知識・理解
十分満足できる状況	・わる数が2位数のわり算の計算のしかたを、既習のわり算の計算のしかたと関連づけて考えようとしている。	・見積もりをもとに、仮商の立て方や修正のしかたについて考え、説明している。	・わる数が2位数のわり算の計算を筆算で手際よく正確にすることができる。	・わる数が何十のわり算の計算のしかたを理解し、説明できる。 ・わる数が2位数のわり算の筆算のしかたを理解し、説明している。
おおむね満足できる状況	・わる数が2位数のわり算の計算のしかたを、既習のわり算の計算のしかたをもとに進んで考えようとしている。	・見積もりをもとに、仮商の立て方や修正のしかたについて考えている。	・わる数が2位数のわり算の計算を筆算で正確にすることができる。	・わる数が何十のわり算の計算のしかたを理解している。 ・わる数が2位数のわり算の筆算のしかたを理解し。

### 指導計画及び評価計画(全14時間予定 本時は8時間目)

時間	ね ら い	主な学習活動	使用PC教材	評 価 項 目
	何十でわる計算のし	・60÷20や90÷20の計算	「商を立て	関 既習の学習内容を思い

1	かたを理解し、その計算をすることができる。	のしかたを考え、まとめる。	るちから」 チェック	出そうとしている。 表商を正しく立てている。
2	87÷21の計算のしかたを考え、筆算のしかたをまとめることができる。	・既習事項をもとに、商の立て方、筆算のしかたを考える。 ・立てた商など、筆算過程それぞれの意味を考え、筆算のしかたをまとめる。	「87÷21の筆算の手順と意味」	表わる数やわられる数をおよその数に正しく直している。 知 商の位置など、筆算を正しく理解している。
3 4	86÷23、78÷19の筆算で仮商修正の意味とそのしかたがわかる。	・除数をおよその数にして、仮商を立てる。 ・過大商と過小商、それぞれの場合の修正のしかたを考え、修正が必要な筆算のしかたをまとめる。	「わり算の筆算をしよう」	考 仮商の立て方や修正のしかたを自分なりの見方で考えている。 知 過大商、過小商を見分ける方法と、修正のしかたを理解している。
5	わる数を切り捨て、切り上げの両方による仮商修正のしかたを比べ、自分の考えやすい方法を見いだすことができる。	・87÷25の筆算のしかたを考える。 ・わる数を切り捨てた場合と切り上げた場合の筆算のしかたを比べる。 ・自分が仮商を立てやすい処理のしかたを考える。	「わり算の筆算をしよう」	考 仮商修正のしかたを自分なりの観点で比べている。 表 自分なりの修正のしかたで商を立てている。
6	153÷24の筆算のしかたを考え、計算のしかたがわかる。	・わられる数が3位数の場合の商の立て方を考える。 ・筆算過程それぞれの意味を考え、筆算のしかたをまとめる。	「153÷24の筆算の手順と意味」	関 わられる数が2位数の場合との表記の違いを進んで考えようとしている。 知 商の立てる位を正しく理解している。
7 8 (本時)	345÷21の筆算のしかたを考え、筆算のしかたがわかる。	・商が十の位に立つ、筆算のしかたについて考える。 ・立てた商など、筆算過程それぞれの意味を考え、筆算のしかたをまとめる。	「345÷21の筆算の手順と意味」 「わり算の筆算をしよう」	考 既習の計算のしかたをもとに筆算のしかたを考えている。 表 商を立てる位を間違えずに表記している。
9	商に0がたつ場合の筆算のしかたがわかる。	・941÷23の筆算のしかたを考える。		知 商に0がたつ場合の簡便な筆算のしかたを理解している。



10	わり算について成り立つ性質がわかる。	商が等しいわり算の式を見比べて、わり算の性質について考える。 ・ $150 \div 50$ と $15 \div 5$ 、 $30 \div 10$ の商の関係を調べて、わり算の性質をまとめる。		考 具体的な場面から、わられる数、わる数と商の関係を考えている。 知 わり算の性質を理解している。
11	末尾に0のある数のわり算の計算方法がわかる。	・ $3200 \div 400$ の筆算のしかたを考え、末尾に0のある数のわり算の計算方法をまとめる。 ・ $2700 \div 400$ の筆算のしかたを考え、末尾に0のあるわり算のあまりの求め方を考える。		表 末尾に0のある数のわり算の計算を正しくしている。
12 13 14	単元の学習内容を確 ・ 実に身につける	・ わり算の筆算を正しく処理する。 ・ 単元の学習で十分身に付いていない内容を習熟する。	「わり算の筆算をしよう」	表 わり算の計算を正しくしている。 知 わり算の筆算のしかたや0のある数の計算方法を理解している。

#### 本時の学習

##### (1) ねらい

商が2位数になるわり算の筆算において、正しい位に商を立て、筆算を進めることができる。

##### (2) 準備

教師...筆算のしかたと意味を解説したコンピュータ教材(全体指導時に使用)、筆算のつまずきを支援するコンピュータ教材(個別指導時に使用)、ノートパソコン5台(うち1台は教師用、4台は個別指導用)、算数科教科書、振り返りカード(授業の最後に使用)

児童...教科書、ノート、筆記用具

##### (3) 展開(次ページ)

注) 展開の中の「PC」は「コンピュータ」と同じ意味で用いている。

学 習 内 容	時間	学習活動の支援（・）及び、留意点（＊）	評 価 項 目（方法）
<p>本時の学習内容を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">           商が2けたになるわり算の筆算のしかたを身につけよう         </div>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ P C教材「345÷21の筆算のしかたの意味」を用いることで、前時の学習した内容を振り返らせる。</li> <li>＊ 初めに商を立てる位が十の位であったことを確認することで、商を立てる位に注意を払うよう促す。</li> <li>＊ 次の学習内容の関連で、教科書は閉じたまま、ノートと筆記用具の準備をするよう指示する。</li> </ul>	
<p>209÷26と546÷21を見比べ、筆算のしかたの違いを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個別に考えを記述する。</li> <li>・ 意見発表をもとに、見分け方を全体でまとめる。</li> <li>・ 2つの筆算を解く。</li> </ul>	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2つの式をノートに筆算形式で並列表記させた後、解き進めなくても分かる筆算のしかたの違いと見分け方について書かせる。</li> <li>＊ 見分け方に気づかない児童には、上1けたの数や上2けたの数とわる数を見比べよう、助言する。</li> <li>＊ 学習課題に集中できるようにするため、教科書は閉じたままにさせる。</li> <li>・ 見分け方について互いの発表を聞き合うことで、自分の考えに確信を持たせたり、新しい見方に気づかせるとともに、ともに学び合う大切さに触れた言葉掛けをする。</li> <li>・ 商が立つ位が確認できた後、この2つの筆算を解かせる。</li> </ul>	<p>十の位に商が立つ場合の見分け方に気づいている。（児童による説明、ノートへの記述）</p>
<p>682÷28の筆算を解く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個別に答え合わせをする。</li> </ul>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 商がどの位に立つか、全体で確認をした後、各自のノートに解かせる。</li> <li>＊ 机間支援を行いながら、筆算支援コンテンツを利用させた方がよいと思われる児童を選んでおく。</li> <li>・ 解けた児童から教師のところにノートを持ってくるよう指示し、マルつけやその子に合わせた指導を行う。</li> <li>・ 先に解けた児童へは、よりたくさんの計算経験が積めるようにするため、教科書の練習問題に先に取りかかるよう伝える。</li> </ul>	<p>適切な位に商が立てられている。（ノートへの記述、個別指導時の児童の発言）</p>
<p>練習問題を解く。</p>	17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科書を開いて、P12～13の練習問題をノートに解くよう伝える。</li> <li>・ 予め選んだ、筆算がなかなか進められない児童にはP Cによる筆算支援教材を使用させる。その際、P C上の計算だけで終わらないようにするため、ノートにも記述させる。</li> <li>＊ P C教材で手際よく筆算が処理できるようになった児童には、P Cには頼らず、自力で解くよう指示する。</li> </ul>	<p>計算を正しく処理されている。（ノートへの記述、パソコンの計算画面）</p>
<p>本時のまとめと次時の予告をする。</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 商を立てる前に、わる数とわられる数を見比べるポイントについて確認をし、本時の学習が振り返れるようにする。</li> <li>・ 次の時間は、商に0が立つ筆算について学習することを伝える。</li> </ul>	